



## 思い出（上野正男名誉教授追悼号）

著者	小林 稔
雑誌名	和光経済
巻	51
号	1
ページ	?-?
発行年	2019-01
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1073/00004714/">http://id.nii.ac.jp/1073/00004714/</a>

## 想 い 出

小 林 稔

22年前の春、上野正男先生は経済学部長として、和光大学に赴任する私を温かく迎えて下さいました。それまで大学教員としての経験もなく大学人としてゼロからのスタートを切った私にとっては、近寄りがたい雲の上の存在でしたが、先生はそんな私にも気さくに声をかけて励まして下さったことを良く憶えています。私が赴任したその年の8月に、先生とご一緒に所属していた経営学関連の学会の全国大会が本学で行われました。その準備のため蒸し暑い真夏の夜遅くまで、まだエアコンが付いていなかったかつての研究室で窓を開けて藪蚊に刺されながらご一緒に仕事をしていたことを懐かしく思います。先生とは、学外でも仲良くさせていただきいろいろとお世話になりました。1年に1回くらいだったかと思いますが、学部教員有志でハイキングに出かけたりしていました。ただ毎回のことですが、肝心のハイキングは早々に終えて食事を兼ねた酒宴となり、先生たちと楽しく語り合ったことも今思えば良き思い出です。先生は、度々、「あの先生は、他人のことを決して悪く言わない立派な人である」と仰っていました。先生ご自身も立派な研究者であり、また決して他人のことを悪く言うことはない紳士でした。先生は研究者であるとともに、人としてしっかりと生きることを大切になさっておられたように思います。そのことが私の中で強く印象に残っています。当たり前のことなのかもしれませんが、実際はなかなか出来ることではありません。まだ若手であった私に対して研究者として対等に接していただき、また自由に活動させていただいたことに深く感謝しております。その意味でも和光らしさを私に教えてくれた先生でした。もう先生にお会いすることは出来ませんが、あの優しいお言葉と励ましを今後も心の中に秘めて日々の責務を果たしていこうと思います。ありがとうございました。先生のご冥福を謹んでお祈り申し上げます。合掌。